

平成16年度  
バリアフリー化推進功労者表彰  
受賞事例集

## 平成16年度バリアフリー化 推進功労者表彰に寄せて

この度バリアフリー化推進功労者表彰を受賞されました皆様に心よりお慶びを申し上げますとともに、皆様のこれまでの活動に対し、深く敬意を表します。

バリアフリー化に関する優れた取組を広く世の中に紹介し、普及させることを目的として本表彰制度が創設されてから、今年で3回目となります。全国から推薦された93件の様々な取組事例の中から、内閣総理大臣表彰を2団体、内閣官房長官表彰については8団体と1名の方が受賞されました。

この中には、障害のあるお子さんに対し関係機関が一体となって支援したり、誰もが街の情報を気軽に受発信できるシステムを構築・運用するという地方自治体の先進的取組を始め、交通機関や大型商業店舗、テーマパークのバリアフリー化、情報や住宅のバリアフリー化のためのボランティア活動など、様々な取組が含まれております。全国各地で、また、幅広い分野で社会のバリアフリー化が推進されていることを改めて実感いたしました。

急速な少子・高齢化が進むわが国において、活力と魅力に満ちた国づくりを進めるためには、年齢や障害の有無にかかわらず誰もが社会の活動に参加し、社会の担い手として役割と責任を果たす共生社会の実現が求められております。

このような考え方に基づき、本年6月にバリアフリーに関する関係閣僚会議において、政府が一体となってハード・ソフト両面にわたる社会のバリアフリー化を推進するための具体的な指針として「バリアフリー化推進要綱」を定め、一層充実した取組の推進を図っております。

申すまでもなく、バリアフリー化の推進は、政府だけの取組で成し得るものではなく、地方自治体、民間企業、地域など社会全体で取り組んでいくことが必要です。今回受賞された皆様には、今後ともますます御活躍いただき、社会におけるバリアフリー化推進の活動の輪が一層広がっていくことを期待いたしております。

最後に、審査に当たられた委員の方々、今回の表彰に御協力いただいた皆様に心より御礼を申し上げます。



平成16年12月

内閣官房長官 細田博之

## 審査を終えて

本年度で3回目の表彰の実施となりましたが、今回も候補者の推薦を都道府県や政令市、関係省庁にお願いし、93件もの多種多様な事例の推薦をいただきました。本年度の審査過程等につきまして、ここにご報告いたします。

毎年度のこととなりますが、今年も大変に困難な審査となりました。

選考委員会においては、すべての事例について

内容 : 他の団体や個人のモデルとなるような充実した内容であるほか、活動の広がりやユニークさなども勘案する

波及(効果) : 他の団体や個人に広く普及することが期待できる

将来性 : 今後、一層の充実や拡大、取り組みの広がり等が期待できる

利用者の視点 : 常に様々な利用者の視点を大事にするとともに、利用者からも支持されている

自発性 : 本来目的や義務としてでなく、自発的な取り組みである

具体性 : バリアフリー社会の実現に対する直接的・具体的な活動である

継続性 : 長年にわたり実績が積み上げられている

などの観点から評価することとし、その結果を総合的に判断することによって、できる限り審査の公平性を保つよう努力しました。

審査については、精力的に行いましたが、公平かつ慎重を期すため、相当な期間が必要となりました。まず、委員会において全ての事例について個別の評価・検討を行い、その中から比較的優れたものとして20件程度を選びました。次に、これらの事例に対して委員が分担して現地調査、情報収集等を行い、これを基の一つひとつの事例について再度議論しました。

施設整備に関係する事例については、関係法令等の整備や事業者等の取り組みにより、バリアフリー化はある程度一般化してきております。したがって、審査においては、プロセスにおける高齢者、障害者等の参加状況やデザインの洗練性、バリアフリーに対する組織全体としての取り組み姿勢、施設整備に付随するソフト面の取り組み状況等、施設の整備水準はもとより総合的な視点で審査を行いました。

製品開発に関係する事例については、近年、幅広い利用者を想定した様々な製品の開発・販売がなされております。こうした状況を踏まえ、審査の際には、手法の独創性、プロセスにおける高齢者、障害者等の参加状況や市場・ユーザーの評価、デザイン性、波及効果などの視点から評価しました。

活動等に関係する事例については、活動の独創性や先進性、継続性や当事者等からの評価、波及効果などが論点となり、これらを総合的に判断しました。候補の中には、独創的かつ先進的な活動を行っているものの将来性等の理由から、今後の活動の継続性及び広がりを期待されつつも、結果として今回の受賞とは至らない事例もありました。

また、今回は推薦事例が全国的な大企業や規模の大きな行政主体から一個人までと幅が大変広がり、そのことが審査をより困難なものとししました。このため、審査では、審査対象の規模や活動能力等に見合った、またそれを上回る功労が認められるか、という点についても慎重に検討をしました。なお、本年度の総理大臣表彰は2件とも自治体となりましたが、特に自治体だけを優先して高く評価したわけではなく、自治体、民間団体、個人の取り組みについて、功労の度合いに応じて検討した結果、偶然、自治体2団体が上位となったことによるものです。

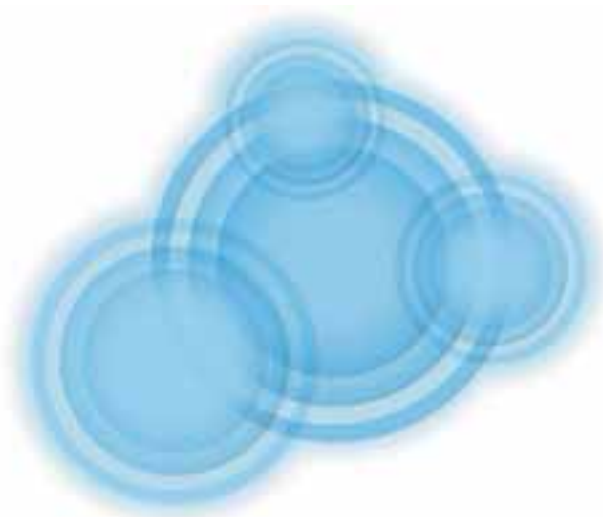
推薦事例にはそれぞれすばらしい特色があり、こうした個別の特色を踏まえつつ、総合的かつ多角的な視点に基づく検討を行いました。審査結果は、前述の審査過程を経て、委員全員で出した一つの結論であり、選に漏れた事例について、バリアフリー化の推進に果たした功績が小さいとするものでは決してありません。

最後に、今回の表彰においてご協力をいただいたすべての皆様に、心よりお礼申し上げますとともに、これを機会にできるだけ多くの方々が「バリアフリー」ということに関心をおもちいただき、社会全体のバリアフリー化が一層推進されることを願い、全体講評とさせていただきます。



# 目次

内閣総理大臣表彰 2件 .....	4
湖南省 .....	4
南砺市 .....	5
内閣官房長官表彰 8件 .....	6
荒 由利子 .....	6
伊予鉄道株式会社 .....	7
株式会社イトーヨーカ堂 .....	8
株式会社オリエンタルランド .....	9
高齢者住宅環境整備ボランティア会 .....	10
仙台シニアネットクラブ .....	11
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 九州旅客鉄道株式会社（共同受賞） .....	12
トヨタ自動車株式会社 .....	13
参考 .....	14
バリアフリー化推進功労者表彰要領 .....	14
バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会委員名簿 .....	14
平成16年度バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会審議経過 .....	15
担当部署一覧 .....	16







# 内閣 総理大臣 表彰

## 湖南省（文部科学省推薦）

所在地：滋賀県湖南省中央1丁目1番地

障害のある子どもへの対応  
講評 については、乳幼児期から就  
 労に至るまで、教育や医療等  
 多くの関係機関が関わることとなるが、  
 その場合には、各関係機関が個別単独に  
 実施するよりも、相互の連携協力の下に  
 実施することで、その効果を十分発揮す  
 ることが期待できる。このため、同市  
 （元甲西町）では、障害のある子ども一  
 人一人のニーズに的確に対応するため、  
 医療、保健、福祉、教育、労働に係る関係機関が一体となって、就学前から就労に至るまで  
 の一貫した支援システムを構築し、子どもの視点に立った有効かつ効率的な支援を実施する  
 ことにより、子どもの自立や社会参加を促している。

具体的には、保護者や関係機関との連携の下、学習障害（LD）・注意欠陥／多動性障害（ADHD）・高機能自閉症等を含む障害のある子ども一人一人について「個別の指導計画」及び「個別の支援計画」を作成し、本計画を活用することにより、部門やライフステージの別にとらわれない、関係機関の連携協力を得た的確な支援を実施している。また、こうした支援体制の中心的役割を果たし関係機関の横断的なコーディネートを図るための機関として、行政内に「発達支援室」を設置し、「個別の支援計画」による縦の連携が図られたサービスを提供している。さらに、「個別の指導計画」に基づいた専門的指導の場として「発達支援センター」を市内小学校内に設置し、親子教室や早期療育発達相談室、ことばの教室（幼児・学齢）を開催するなど、支援内容の充実等に取り組んでいる。

このように、支援を受ける子どもを中心として部門の縦割りを排し、学齢期に限らないライフステージに応じた一貫した支援への取組は、全国に先駆けて同市が進めているものであり、同市の取組は全国に紹介され、地方自治体等の取組に広く影響を与えている。



発達支援センター全景（市内小学校に併設）



# 内閣 総理大臣 表彰

## 南砺市（富山県推薦）

所在地：富山県南砺市苗島4880

まちの情報を誰もが気軽に  
講評 発信でき、それを簡単な形で  
受信できるシステムを構築・  
運用して、年齢や障害の有無にかかわら  
ず誰もが公平に参加できる情報生活環境  
を実現し、地域コミュニティの活性化を  
目指している。

具体的には、住民が知りたい地域情報  
（ニュース、イベント、施設案内等）が  
掲載されたポータルサイトを立ち上げ、

家庭でのパソコンはもちろん、同市（元福光町）内の主要施設に設置されたタッチパネル式  
情報端末等から、ポータルサイトにアクセスすることにより、誰でも必要な地域情報の入手  
等ができるように整備している。さらに、パソコンを持っていない人でも、家庭で気軽に情  
報が得られるよう、CATVによるこれら情報の入手を可能とするとともに、CATVには文字  
の自動読上げ機能を付加しており、より多くの地域住民が活用できるよう工夫している。ま  
た、市内各所に設置されている情報端末には小型カメラやカードリーダーが搭載されており、  
その場でテレビ電話による市役所職員との行政相談、さらには住民基本台帳ネットワークカ  
ードを使った図書館の利用や施設予約等を行うことができるようになっているなど、様々な  
行政サービスの提供を実施している。

これらのポータルサイトを中心とした情報サービスのネットワークは、ITを用いた地域コ  
ミュニティ活性化の全国的な先進事例となっている。また、こうしたネットワークの企画・  
整備・運営は、まちづくりに主体的に取り組むボランティアなど地域住民が中心となって行  
っており、地域に根付いた取組となっている。





# 内閣 官房長官 表彰

荒 由利子（福島県推薦）

勤務先：福島県双葉郡双葉町大字新山字広町80〔福島県立双葉高等学校〕

高齢者、障害者等が自尊心  
講評 を持ち、豊かな人生を送ること  
ができるような環境づくり  
を目指して、教職について以降30年以上にわたり、生徒や地域住民の心のバリアフリーを推進するなど積極的に活動している。

具体的には、高校教諭という立場を生かし、生徒はもちろん、家庭や地域の住民なども巻き込みながら、使いやすい生活用品の発明や高齢者等へのボランティアの実施、まちのバリアフリー実態調査に基づくバリアフリーロードマップの作成や歩道等のバリアフリー整備に対する協力など、幅広い活動を実施している。生活用品の発明では、そのアイデアが企業の商品に取り入れられたものが複数あり、また、まちのバリアフリー実態調査では、高齢者等が街中を歩く際に気軽に休憩できる場所がないことに着目し、店先に簡易な椅子を設置するよう商店に働きかけを行って協力を得るなど、社会・地域のバリアフリー化に影響を与えている。こうした活動は、同教諭の指導のもと家庭クラブ等の活動の場を通じ生徒を中心に実施されたものが多いが、そのような活動が評価され、同教諭の赴任校が全国高等学校家庭クラブ連盟研究会発表会で最優秀賞（文部大臣賞）を5回受賞するなど、高い評価を受けている。

なお、これまでの赴任地においては、同教諭の転任後も、こうした活動が継続して実施されており、バリアフリー化への活動の輪が着実に広まっている。



店先への椅子の設置



# 内閣 官房長官 表彰

## 伊予鉄道株式会社（愛媛県推薦）

所在地：愛媛県松山市湊町四丁目4番地1

伊予鉄道松山市駅の既存駅舎（百貨店との複合ビル、昭和46年竣工）は、改札とホームが線路で隔てられた構造であり、ホームへの移動に際し垂直方向の移動が必要であった。しかし、構内に昇降用設備が設置されていなかったため、利用者はいくつもの階段を利用しなければならず、高齢者、障害者等の円滑な利用に多くの支障が生じていた。

そこで、平成10年の駅舎増築に際し、利用者の動線に配慮しつつ、エレベーターや車両とホームとの段差を解消する車いす乗降装置の設置をはじめ、多機能トイレやコンコースへの総合インフォメーションセンターを整備するなど、既存駅舎の改築を含めた大規模な改善に取り組んだ。また、松山市のイメージの発信という視点から、クラシックなデザインの採用、駅前広場と一体となった公開空地の整備などにも取り組んだ。この改修に際しては、障害者団体等の意見を取り入れ、視覚障害者誘導用ブロックの色や配置、照明器具の照度など、きめ細かな配慮を行った。さらに、こうした駅舎改修に加え、積極的に超低床路面電車やノンステップバスを導入するとともに、ソフト面の取組としてバリアフリーに関する職員教育や利用者からの意見等の全職員共有システムの導入を行うなど、交通結節点として総合的なバリアフリー化を進めている。

これにより、市民の安全・快適な移動が可能となり、高齢者、障害者をはじめ多くの人々の社会活動範囲を広げ、地域経済の活性化に大きく貢献したことが高く評価された。



松山市駅全景





# 内閣 官房長官 表彰

## 株式会社イトーヨーカ堂（内閣府推薦）

所在地：東京都千代田区二番町8番地8

「国連障害者の10年」を契機に、平成3年から店舗整備・運営等の面でノーマライゼーションの理念を導入し、平成6年開店の和光店の整備にあたっては、この理念を具現化した施設の導入に取り組んだ。具体的には、障害者用エレベーターの整備、階段への高低差のある2重の手すりの設置等23項目にわたる店舗施設・設備に対する配慮を行った。その後

もさまざまな利用者や専門家の意見等を参考に自主的な検証・改善を継続的に行い、新たに整備される店舗にその成果を反映していった。平成11年からは、ユニバーサルデザインの導入について検討を開始し、平成12年に開店した木場店においては、階段の段毎の色分け、従来の2倍のスペースをもつ試着室（同室内での段差解消、手すり及びベンチ設置）の整備、車いす利用者でも使いやすいおむつ交換台の設置等多数の施設改善を実施し、その後開店する店舗にも順次反映していった。

また、こうした店舗整備と並行して、手話講習会をはじめ障害者等への接客方法の研修を行う等徹底した社員教育を行うとともに、販売員も含めた障害者雇用の促進、障害者が作成した作品の展示販売、ユニバーサルデザイン商品の販売など、ソフト面の取組みも積極的に行っている。



# 内閣 官房長官 表彰

## 株式会社オリエンタルランド（千葉県推薦）

所在地：千葉県浦安市舞浜1番地1

年齢や障害の有無に関わらず全てのゲスト（来園者）が、楽しみ・喜び・感動することができるようなパーク作りを目指し、「基本生活の環境整備」、「人にやさしい接客」、「遊びの環境整備」を基本コンセプトとして、東京ディズニーシーの整備・運営を実施している。

ハード面では、テーマを持った施設のデザインとバリアフリー対策とを融合させ、高齢者や障害者等の意見をききながら、誰もが楽しめる施設を計画・建設している。具体的には、アトラクションや劇場、飲食施設などへのスロープや昇降機の設置、多機能トイレやベビーセンターの整備、視覚障害者向けの触知案内板やインフォメーションボードの園内各所への設置、聴覚障害者向けの音声ガイドやアトラクションのストーリーペーパーの配布などを実施している。また、ディズニーシーの開園後も施設の検証を継続的に行い、バリアフリー化のために必要な改修を行っている。

一方、ソフト面では、カードを見れば求める介助内容等がわかるよう、必要事項が記入されたカードを発行して、その都度キャスト（従業員）に説明しなくても適切な対応が受けられるよう工夫したり、来園前にバリアフリー情報を知ることができる冊子等を作成・送付するなどして、ゲストが円滑に園内各施設を利用できるよう配慮している。さらに、キャストに対しバリアフリーに関する勉強会や手話教室などを実施しており、全ての人に優しい接客に努めている。



東京ディズニーシー





# 内閣 官房長官 表彰

## 高齢者住宅環境整備ボランティア会（大分県推薦）

所在地：大分県日田市上城内町1467-6

高齢社会の本格的な到来を  
講評 目前に控え、地域で生活して  
いる高齢者の尊厳と自立を支  
援するために、複数の建築関連事業者で  
構成された同ボランティア会を平成7年  
に結成し、住宅のバリアフリー改修をは  
じめとして、高齢者の安心・快適な生活  
環境の整備に関連する活動を継続的に実  
施している。

具体的には、日田市在住の高齢者世帯  
を主な対象として住宅改修等の要望を受  
け付け、専門的なノウハウを活かして、  
階段や廊下等への手すり・スロープの取  
り付けなど軽微なバリアフリー住宅改修  
を実施している。利用者に対しては材料  
費程度を求めるのみであり、年間60件  
程度、これまでに600件程度の住宅改修を行っており、利用者から大変感謝されている。また、住宅改修のほかに、福祉関係者や行政との意見交換会等を実施することにより、相互の知識・技術の向上を目指すとともに、各種セミナーを開催することにより、この種の活動に対する理解や広がりを促すなど、バリアフリーに関する普及・啓発にも努めている。





# 内閣 官房長官 表彰

## 仙台シニアネットクラブ（仙台市推薦）

所在地：宮城県仙台市青葉区春日町2-1

高齢者がインストラクター  
講評 となって、地域の高齢者や小  
学生向けにパソコン教室をボ  
ランティアで開催している。このように、

高齢者が高齢者に教えることにより、高  
齢者の特性に対応したきめ細かな指導が  
可能となっており、パソコンを敬遠しが  
ちな高齢者が気軽にパソコンに親しむこ  
とができ、地域におけるデジタル・ディ  
バイドの解消に貢献している。また、小  
学校からの要望に応じ、小学生に対してもパソコンを教えているが、この活動により小学生  
のパソコン技術の習得はもちろん、核家族化が進み日常生活において高齢者と話す機会が少  
なくなった子供たちに高齢者と話し合う機会を提供し相互理解を促すなど、心のバリアフリ  
ー化にも役立っている。さらに、こうしたパソコン講習活動の他に、高齢者の視点を活かし  
てソフトウェア会社のソフト開発に協力するなど、幅広い活動で情報バリアの解消に取り組  
んでいる。

インストラクターを務める高齢者は、同クラブのパソコン教室の受講生であった人であり、  
パソコン技術の自己研鑽とともに、自らの社会参加・生きがいづくり、また、自らの技能を  
生かした地域貢献活動として積極的に活動している。



# 内閣 官房長官 表彰

## 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 九州旅客鉄道株式会社【共同受賞】(熊本県推薦)

所在地：神奈川県横浜市中区本町6-50-1

福岡県福岡市博多区博多駅前3丁目25番21号

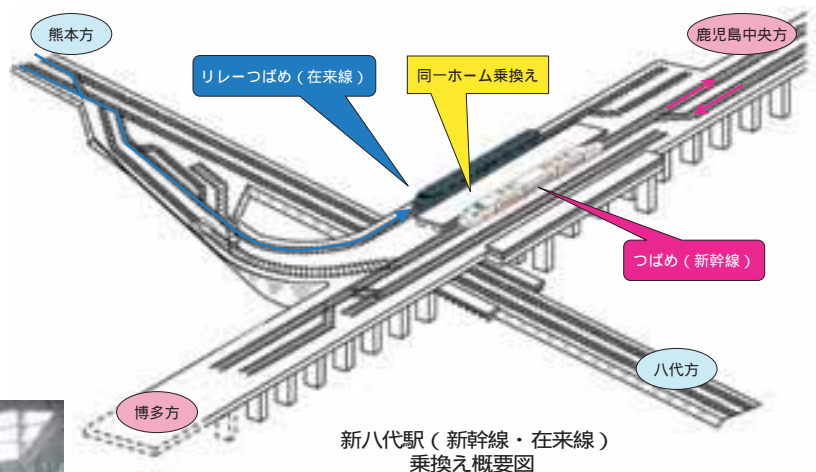


新八代駅

九州新幹線は、現在、新八代駅から鹿児島中央駅までの先行開業となっており、福岡方面との往来については新八代駅において在来線と新幹線との乗換えが必要となる。このような乗継ぎは、通常、在来線ホームと新幹線ホームが専用改札を隔てて別の場所にある施設配置となっており、利用者は上下移動を伴いながらホーム間を移動しなければならない。しかし、

新八代駅では、我が国で初めて在来線と新幹線とを対面同一ホーム乗入れ構造とし、乗換えを水平移動のみで行えるよう整備した。また、乗換え時の座席位置にも配慮した乗車券・特急券チケットの一枚化や乗換え時の乗務員・駅職員による障害者等への乗換えサポート等を行い、運営面における利用者利便の向上にも努めている。

駅舎自体についても、障害者等利用者の意見を積極的に取り入れながらバリアフリー化を行っており、授乳等が行える多目的ルームや視認性に優れたホーム・エレベーター等を整備するとともに、地元の素材を活用したぬくもりのあるデザインを導入するなど、ユニバーサルデザインにも配慮されたものとなっている。また、九州新幹線に導入された新型車両「つばめ」も、乗降口幅の拡大化や、車いす使用者に対応したトイレ、電話室等の設置などを行っているが、これらはバリアフリー設計と訴求力のある斬新なデザインとが融合した先進的な事例となっている。



(新幹線)

(在来線)



# 内閣 官房長官 表彰

## トヨタ自動車株式会社（経済産業省推薦）

所在地：愛知県豊田市トヨタ町1番地

ユニバーサルデザインを、  
講評 年齢・性別を問わず様々な人  
が快適に、色々なシーンで楽  
しむことを実現させる活動であると位置  
づけ、車両の開発における取り組みはもち  
ろん、ユニバーサルデザインに関する  
各種啓発活動を積極的に行い、その推  
進・普及に取り組んでいる点が高く評価  
された。

車両の開発に際しては、人間工学的視  
点からの独自の180項目の指標を設定して基本的な使い勝手を評価するとともに、開発車両  
のコンセプトに応じた使用シーンを開発初期に30項目選び出してシーンや使い方の達成レ  
ベルを目標設定し、その達成度合いを点数評価するなど、開発サイクルの中にユニバーサル  
デザイン実現のための客観的な評価システムを組み込んでいる。平成15年以降発売する全  
ての車両開発の際にこれらの指標による定量的な評価を行って、高齢者を含めた幅広いユー  
ザーの安全性・快適性の向上を追求するとともに、その結果を公表している。また、人に優  
しい車づくりを推進する際には、社会全体がユニバーサルデザインに対して正しい理解を深  
め、必要性を感じる事が重要であるとの観点から、ユニバーサルデザインをテーマにした  
大規模な展示施設「ユニバーサルデザイン・ショーケース」を設けた。そこには、他社・他  
分野も含めた幅広いユニバーサルデザイン商品と共に、国内最大級の福祉車両の展示および  
専用試乗コースが備えられている。さらに、各種講演活動等を通して、国内外におけるユニ  
バーサルデザインの普及に努めている。



ラウム



ボルテ（写真はウェルキャブ（福祉車両））



ユニバーサルデザイン・ショーケース



# バリアフリー化推進功労者表彰要領

平成13年11月6日 バリアフリーに関する関係閣僚会議決定

## 目的

この表彰は、高齢者、障害者を含むすべての人が安全で快適な社会生活を送ることができるよう、ハード面、ソフト面を含めた社会全体のバリアフリー化を効果的かつ総合的に推進する観点から、その推進について顕著な功績又は功労のあった個人又は団体を顕彰し、もって、バリアフリー化に関する優れた取組を広く普及させることを目的とする。

## 表彰の対象

バリアフリー化に関して、施設の整備、製品の開発、推進・普及のための活動等において、極めて顕著な、又は特に顕著な功績又は功労のあった個人又は団体

## 表彰者

極めて顕著な功績又は功労があったと認められる者については内閣総理大臣、特に顕著な功績又は功労があったと認められる者については内閣官房長官

## 表彰の方法

表彰状及び記念品

## 表彰の時期

表彰は、年一回行う。

## 表彰の手続

都道府県等から推薦された者のうちから、別に定める選考委員会の意見を聴いて、内閣総理大臣又は内閣官房長官が被表彰者を決定する。

## 表彰の事務

表彰に関する事務は、関係各省庁の協力を得て、内閣府において行う。

## その他

- (1) この要領に定めるもののほか、表彰の実施に関し必要な事項は、内閣府政策統括官（総合企画調整担当）が定める。
- (2) この表彰は、平成14年から5年間に限り実施することとする。

# バリアフリー化推進功労者表彰 選考委員会委員名簿

委員長	野村 歡	日本大学理工学部教授
委員	勝尾 岳彦	日経デザイン編集長
	篠 佳子	国立身体障害者リハビリテーションセンター講師
	関根 千佳	(株)ユーディット代表取締役
	高橋 儀平	東洋大学工学部教授
	田中 徹二	(福)日本点字図書館理事長
	野澤 克哉	都立保健科学大学非常勤講師・関東ろう連盟理事長
	村田 幸子	ジャーナリスト
	山本 信一郎	内閣府政策統括官（共生社会政策担当）

(敬称略、50音順)


## 平成16年度 バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会審議経過

月 日	委 員 会 等	備 考
7月29日(木)	<b>【第1回委員会】</b> ・平成16年度バリアフリー化推進功労者表彰推薦状況について ・今年度の審査の進め方について	出席委員 9名
8月中	<b>【書面による審査】</b> ・委員全員がすべての事例について、提出された資料により審査	
9月6日(月)	<b>【第2回委員会】</b> ・1次審査（受賞候補者の絞り込み）について ・現地調査等について	出席委員 8名
9月中	<b>【現地調査】</b> ・1次審査の際に比較的優れたものとして選ばれた20件程度について、委員が分担して現地調査等を実施	
9月30日(木)	<b>【第3回委員会】</b> ・現地調査結果の報告 ・受賞候補者の検討	出席委員 9名
10月29日(金)	<b>【第4回委員会】</b> ・受賞候補者の検討	出席委員 8名

# 担当部署一覽

府省・地方公共団体名		所 管 部 局 課 名	電 話 番 号	FAX番号
関 係 府 省	内閣官房	副長官補室	03-5253-2111(82439)	03-3593-2259
	内閣府	政策統括官(共生社会政策担当)府企画調査担当	03-5253-2111(44134)	03-3581-0992
	総務省	大臣官房企画課	03-5253-5111(5157)	03-6734-3690
	文部科学省	文教施設企画部施設企画課	03-5253-4111(2291)	03-3502-0892
	厚生労働省	社会・援護局障害保健福祉部企画課	03-5253-1111(3017)	03-3503-1237
	農林水産省	経営局女性・就農課	03-3502-8111(4335)	03-3593-2612
	経済産業省	商務情報政策局サービス産業課医療・福祉機器産業室	03-3501-1511(4051)	03-3501-0315
	国土交通省	総合政策局政策課	03-5253-8111(242235)	03-5253-1548
	警察庁	交通局交通規制課	03-3581-0141(5192)	03-3593-2375
都	北海道	保健福祉部地域福祉課	011-231-4111(25617)	011-232-7452
	青森県	健康福祉部障害福祉課	017-734-9307	017-734-8092
	岩手県	保健福祉部保健福祉企画室	019-629-5406	019-629-5419
	宮城県	保健福祉部地域福祉課	022-211-2518	022-211-2595
	秋田県	健康福祉部福祉政策課	018-860-1316	018-860-3841
	山形県	健康福祉部障害福祉課	023-630-2240	023-630-2111
	福島県	保健福祉部少子高齢社会対策グループ	024-521-7198	024-521-7979
	茨城県	保健福祉部厚生総務課地域保健福祉グループ	029-301-3129	029-301-3139
	栃木県	保健福祉部医事厚生課	028-623-3047	028-623-3056
	群馬県	保健・福祉・食品局障害政策課	027-226-2632	027-224-4776
	埼玉県	県土整備部建築指導課	048-830-5527	048-830-4887
	千葉県	健康福祉部健康福祉政策課	043-223-2615	043-222-6294
	東京都	福祉局生活福祉部地域福祉推進課	03-5320-4047	03-5388-1403
	神奈川県	福祉部地域福祉推進課	045-210-1111(4641)	045-210-8856
	新潟県	福祉保健部障害福祉課	025-280-5211	025-283-2062
	富山県	厚生部厚生企画課	076-444-3197	076-444-3491
	石川県	健康福祉部厚生政策課	076-225-1413	076-225-1409
	福井県	福祉環境部障害福祉課	0776-20-0338	0776-20-0639
	山梨県	福祉保健部障害福祉課	055-223-1461	055-223-1464
	長野県	社会部コモンズ福祉課	026-235-7108	026-235-7392
	岐阜県	健康福祉環境部福祉政策課	058-272-1111(2584)	058-271-5724
	静岡県	生活・文化ユニバーサルデザイン室	054-221-3233	054-221-2827
	愛知県	建設部建築指導課	052-961-2111(2839)	052-951-0840
	三重県	健康福祉部地域福祉室ユニバーサルデザイングループ	059-224-3349	059-224-2919
滋賀県	健康福祉部健康福祉政策課	077-528-3519	077-528-8850	
京都府	保健福祉部福祉のまち推進室	075-414-4551	075-414-4615	
大阪府	建築都市部建築都市総務課	06-6941-0351(3012)	06-6944-6801	
兵庫県	県土整備部まちづくり局まちづくり課	078-362-4298	078-362-4456	
奈良県	福祉部福祉政策課	0742-27-8503	0742-22-5709	
和歌山県	健康福祉部障害者福祉課はつらつ計画推進グループ	073-441-2531	073-432-5567	
鳥取県	福祉保健部福祉保健課	0857-26-7142	0857-26-8116	
島根県	健康福祉部障害者福祉課	0852-22-6686	0852-22-6687	
岡山県	保健福祉部障害福祉課	086-226-7343	086-224-6520	
広島県	福祉保健部福祉総室身体障害者福祉室	082-513-3155	082-223-3611	
山口県	健康福祉部障害福祉課	083-933-2760	083-933-2779	
徳島県	保健福祉部障害福祉課	088-621-2237	088-621-2241	
香川県	健康福祉部健康福祉総務課	087-832-3259	087-861-2193	
愛媛県	保健福祉部管理局保健福祉課	089-912-2386	089-921-8004	
高知県	健康福祉部障害福祉課	088-823-9634	088-823-9260	
福岡県	保健福祉部企画課	092-643-3244	092-643-3246	
佐賀県	健康福祉本部企画・経営グループ	0952-25-7052	0952-25-7264	
長崎県	福祉保健部社会福祉課	095-822-1022	095-828-4680	
熊本県	健康福祉部福祉のまちづくり課	096-383-1111(7031)	096-387-5992	
大分県	福祉保健部福祉保健企画課	097-536-1111(2621)	097-534-6568	
宮崎県	福祉保健部障害福祉課	0985-26-7068	0985-26-7340	
鹿児島県	保健福祉部障害福祉課	099-286-2111	099-286-5558	
沖縄県	福祉保健部障害保健福祉課	098-866-2190	098-866-6916	
指 定 都 市	札幌市	保健福祉局保健福祉部高齢施設課	011-211-2972	011-218-5179
	仙台市	健康福祉局健康福祉部社会課	022-214-8158	022-214-8194
	さいたま市	保健福祉局福祉部福祉総務課	048-829-1254	048-829-1961
	千葉市	保健福祉局保健福祉総務課	043-245-5163	043-245-5546
	横浜市	福祉局地域福祉部福祉のまちづくり課	045-671-4049	045-664-3622
	川崎市	まちづくり局総務部企画課	044-200-2715	044-200-3967
	名古屋市	健康福祉局障害福祉部障害施設課	052-972-2558	052-972-4149
	京都市	保健福祉局保健福祉部障害企画課	075-251-2385	075-251-2385
	大阪市	健康福祉局障害者施策部障害福祉課	06-6208-8079	06-6202-6962
	神戸市	障害福祉部障害相談課	078-322-5228	078-322-6044
	広島市	社会局社会企画課	082-504-2144	082-504-2169
	北九州市	保健福祉局総務部計画課	093-582-2495	093-582-2095
	福岡市	保健福祉局総務部計画課	092-733-5344	092-733-5587





平成16年度  
バリアフリー化推進功労者表彰  
受賞事例集

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付  
企画調査担当

〒100-8970 東京都千代田区霞が関3-1-1  
TEL 03-5253-2111（44134）

<http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/hyousho.html>